

## 司法書士法教育ネットワーク第9回定時総会・記念研究会

### 「なぜ、法教育の取り組みが求められているのか」 (4-3)

2017年6月25日(日)午後1時30分～午後4時45分 京都司法書士会会館にて

登壇者： 小澤吉徳氏 日本司法書士会連合会副会長 法と教育学会理事  
石井寛昭氏 全国青年司法書士協議会人権擁護委員会  
河村新吾氏 広島市立舟入高等学校教諭(公民科) 法と教育学会理事  
進行役： 小関香苗氏 日本司法書士会連合会法教育推進委員会前委員長

(3)

小関

第2部は、法教育活動の「スキル」を考えるということで、広島市立舟入高等学校の公民科の先生であります河村新吾さんにお話をいただきます。よろしくお願いいたします。

#### 【第2部】法教育の「スキル」を考える

##### ● 講演 「ゲスト講師の「マインド」が伝わる授業・講演の作り方」

[配布資料：法教育活動の「スキル」を考える](#)

河村

それぞれ熱い思いを持って、ここにご参集なさったんだと思います。4時までの間、今しばらくちょっとお付き合いの方よろしくお願いいたします。河村と申します、広島から参りました。広島の舟入高等学校で「政治・経済」を教えています。舟入高等学校は、原子爆弾で舟入高校の前身である市立高等女学校で、一番多く原爆で亡くなった生徒のいる学校に今、勤めております。本日はですね、小澤さんの方から大局的な法教育の話、石井さんから具体的な法教育の話がありまして、私は教員という立場で学校からみた法教育ということで、特に内容の方ではなくて方法論の方に重点を置いてお話させていただこうと思います。教員としては小学校の経験はないんですが、中学校に3年、高等学校に30年勤めてもうおじいさんになっております。今しばらくお付き合いください。

大事なことを言うの忘れていました。10周年おめでとうございます。

(注：以下、資料1頁) それでは、小学校も中学校も高等学校もすべて、私たちが受けてきた学校と今、大きく変わってきております。何が大きく変わってきているかということについて、まず大前提をお話した後、初心者向けの話、ベテランの方がよく悩まれる話、最後にいわゆる質問を受け付ける、そういう構成内容でお話をさせていただきます。

従来であればですね、先生が答えを知っていて、生徒は一生懸命それを習うという一方通行の授業がほとんどだったし、ここにいる皆さん方もそういう授業を受けてきたんじゃないかと思います。ところが今、小中高は習うのではなくて学びなさい、自ら学び、先生が課題を与えるのではなくて、自分で課題を見つけ、主体的に判断をして問題を解決しなさい。このように学校のシステムが大きく変わっております。その背景には、グローバル化社会で変化が激しい社会では、学校で習っている知識を覚えても賞味期限があって役に立たないという現実があるからです。それで、問題が解決できるよう学ぶ子どもを育てたい、というのが小中高の共通でございます。

で、子どもの実態はどうかといいますと、この画像のように始終スマホを見ております。私たちの世代であれば、携帯電話やスマホはあったら便利がいいなというレベルですけど、今の子どもたちは便利がいいのではなくて、なくてはならないものになっています。始終見ております。で、私たちが小さいころは家族を知って地域を知っているふうなふうに同心円大的に地域を知っていくんですが、いきなり子どもたちは社会を知ることになります。スマホを通して、まあ極端に言えば、新宿

の歌舞伎町の交差点に立ってられるもので、いきなり世界と結びついております。

こういう状況で、子どもたちはどんな状況になっているのかということ、子どもたちはひとりで向き合ってますので、すべての子ともが分断されています。社会とつながってないんですね。で、そういう子どもたちの中ではこのスマホというのがなくてはならないもので、スマホだけ見ても子どもの様子はわかりません。本校で最先端のスマホを持っている子がいました。一番高くて新しいものです。でも実態を見ると生活保護で、しかも親元で生活できないからおばあさんちから通ってるんです。何が言いたいかということ、貧困が見えないんです。子どもたちの6人に1人は貧困です。高級なスマホを持っているから金持ち、ではないんです。その子にとってスマホは無いと困るんです。そのスマホを利用して、アルバイトの検索をしていました。貧困が見えないというのは、例えば、子どもたち、遠足に行かなかったり、修学旅行に行かなかったりします。それは、修学旅行に行くお金がないのではなくて、修学旅行の時に着ていく下着がないんです。穴が開いた下着、そんなものは友達に見せられないんです。そんなことは先生に一言も言いはしません。だから、遠足の時にある一定レベルの学校であれば自由服でいいですよ。自由な服が着れる環境にある子が多いからです。でもそうじゃないところでは、着ていく服がないから遠足に行かない。そういうお子さんも今、いらっしやいます。特にここ近年、母子家庭といわれる家庭が大変増えております。子どもは、点になって分断されて貧困の中にいる、しかも、その貧困は見えなくなっているというのが、今の子どもたちの置かれている状況であります。

で、そんな中で今、学校の方はどういうことを言っているのかということ、基本的にはきちっとした生活をする、しっかり勉強をする、学力と生活というのは両輪ですが、健康だとか体力、貧困はすぐ見つかるんだそうです。4月の検診の時に虫歯の多い子。とかく食生活が豊かでないのでお菓子だけで済ましている。そういう中で、虫歯一つで貧困が見えたり。今、子どもたちが健康だったり、豊かな人間性だったり、確かな学力だったり、それを今、文科省の方は学力観が大きく変わってますね、次からは、というかもうすでに前倒しなんです、何かを知っている、ということよりも、何ができるか、自分で学ぶことができる、人に質問ができる、そういう子どもに育てよう。黙ってじっといい子でおるわけではいかないと。昔だったら、先生の言うことを聞く子、親の言うことを聞く子というのがすごく大事な要素だったです。でもそういった価値観でブラック企業に勤めて言われるままに自分を疑問のないままにしていくのはいけない。きちっとコミュニケーションをとって自分の意見を言う、問題点を見つける、相談に行く。私たちが法曹の先生方とできることは、私たちが法曹の力を持つんじゃなくて、法曹の先生方にしっかり繋いでいく。そういうことが今、私たちの仕事となっております。で、それは今、一つの単語で「生きる力」という形になっています。

で、ご存じのように今、いじめという話が、最初のほうの話でもありました。死ぬ子どもが多いです。今、イスラームと聞けばテロリストの集団ではないかといいますが、イスラームの方と話すと「日本が一番怖い」といいます。なぜかということ、3万人近い人が自殺するからです。イスラームでは全て神の導きなので、自分で背負いこむことがないんだそうです。それで今現在、文科省が大きくスタンスを変えました。いじめがない学校にしよう、からいじめはある。但し、それが重大化しないような社会にしよう。そういうように大きく方向変換をしました。

いじめも客観的な基準があるのではなくて、悲しいとか辛いとかその人が思ったらもういじめとしましよと、いじめの基準が個々によってもうばらばらになってるんです。でもそういったいじめはある、でもそれを解決できる学校にしよう、重大化しない学校にしよう。逆に言えば、トラブルのないことを教えるのではなくて、トラブルはある。あるんだけど、それをどのように解決するか、そういう仕組みを教える。生きる力を育てるといっているので、問題解決という発想が今学校で一番大き

く求められております。それでいえば、今の法曹の先生方の関係で言えば、なるべく「弁護士と相談」にならないように、「司法書士さんと相談」にならないようにする社会がいい社会ではなくって、事後的にそういうことをするよりも、予防するために、ならないために、また法曹の人たちと法的な学びをすることが、益々実質的に重要になってきております。

子どもたちに法に関連した教育という形で、私も7月に1回だけ毎年授業するようにしています。子どもたちからくる意外な答えや、こちらが反省することは、いろんな事象を法に関連して話します。法に関連して話すというのは、自分たちのことは自分たちで決めよう、で、みんなでもみんなが決めても決められないことだってあるかもしれない。いろんなことをみんなで考えるんですが法に関連した教育をしたことで、子どもたちから今まで正義とか公平、そんなこと考えたことなかった。学校で何が正しいとか、何が公平っていうことを考えたことはなかった。ただ、これには厳しい抵抗勢力がございまして、子どもたちの中には正解を習うのが、いかに効率良く習うのかというのが学校だと思っている子どもたちは、答えのない法教育に戸惑いがあります。また教える方も、結局答えは何なんですかってことに着目すると、すごく難しい問題が、これは内包している教育ではあると思います。

(注：資料2頁左上) それで法教育を少しまとめますと、法に関連させることで法的な見方、考え方というものを習得させるというのが法教育の一側面で、ここが大事なところで、参加型の教育で生徒たちを巻き込んで生徒の話を聞きます。子どもたちは集団の中で勉強してますから一番よく知っています。誰が一番頭が良くて、誰が一番頭が悪いのか。ところが参加型の教育であればそんなことが関係ないです。みんなが参加して自分の意見を言うから、何か正しいこと、文化的に美術館に行っている子どもたちが日本史の授業で仏像の中身をよく知っていたり、そんなことが出てこないですね。もう一つが法曹専門家と出会える。どうしても私たちが勉強しても法曹専門家の方の知識には足元にも及びません。実社会でこんなことを経験してる、あんなことをやっている人たちが学校に来てくれて、あなたのこの考え方は勉強になったとか、あ、これはいいアイデアだとか言ってもらったら子どもは大喜びです。これが今現在、学校全体の法教育の、今の有りようです。

(注：以下、資料2頁右上から) それで、今からは今度初心者の方に向けてのお話なんです、これ、今見ますと初心者の参加者の方、少ないんじゃないかというふうにお見受けさせていただいております。一つは教室がですね、懐かしい教室なんです、久しぶりに行ったりすると、まず最初に戸惑うのは、今まで私たちは黒板を見て授業をしていたのが、今度は教壇に立つと違った景色になります。多分そこが一番、初心者の方が混乱するんじゃないかと思います。自分は今まで先生の顔を見てたのが、今度は40人の子どもたちの目が一斉にこっち向いていく。一度教室に立たれるとずいぶんイメージが違ってるのがわかってくるし、教室というのはどこの学校でもほぼ例外なく左側に窓があります、ほとんどの子が右利きなので、左から光があれば手元が明るくなるだろう。小学校に行くと必ず下のフロアのところが升目になってます。これは、何個目を見て礼をすると会釈で、何個目を見ると最敬礼なんです、礼儀を教えたりいろんな工夫がしてあります。で、自分で黒板に書いてみたりいろいろしてみると、案外教室の座る場所によって見え方が違ったりします。もし、教室で左、横書きで書こうとするんだったら、是非ともここ、左上のところにみんな目がいきますので、そのところに字を書いて始めてくださるといいかもわからないです。一度、教室を見てやってください。古い学校であれば、教壇というのがきて一段高くなってます。戦後新しい学校では、先生が上から子どもを見下ろすのはよくないというので教壇がありません。私のようなちっちゃい人間が下の方に書くと見えません。それぞれどんなふうに見えるかっていうのを工夫するにも、一つ教室の方を覗いてやってください。

前日にすることは何なのかといたら、これはもう初心者の方にお伝えせんとい

けんのは、ぐっすり寝ることだけです（会場笑）。あの、3時、4時まで予習をする方がいらっしゃいます（会場笑）。疲れきった顔で来られても、で、本人の中では何十回、何十回もシミュレーションをしてるから、さっき言っただろうな顔でいろいろ言われても、子どもは初めて聞きますので、ぐっすり寝てもらうのが一番いい前日のやり方です。その時に、一生懸命勉強をたくさんなさってるんだけど、結局今日何しに来たんですかと生徒に聞かれたとき、一言で答えられるかどうかのチェックをしていただきたいんです。「今日、何しに来たん？」「今日、何をやるん？」って言ったときに、いや、これとこれとこれとこれとこれとって言わなくて、結局これをしに私は来たんですよと。一言で言えるかどうか、自分で自問自答してください。子どもたちは、今日、司法書士の先生来ますよって言ったら、「何しにくるん？」それしか聞きませんから。だから、「これこれをしに、今日来ました」っていうのは温めて学校に来てくださることをお願いします。

前日におそらくね、真面目な方が多いので、たくさんたくさん正確に調べようと思われると思います。仮に10個調べても、現実の授業でお話するのは3つで十分です。10ページあっても今日できるのは3ページ分にしよう。これが、そういうことだと思って準備をしてください。でも自分でどうしても教えたいことっていうのはね、あると思うんですね。そしたら、10ページのテキストを何か渡したら、このページのここに絶対注目してもらおうというので自分で1か所マークを付けて、そこをもう頭に完全に入れるんです。読みながらこう見ながら言うんじゃないかって、「さあ、今あなたが言ったことはですね。10ページに書いてあるんだ。みんな、この子に拍手をしてください。じゃ、10ページ開けましょう。」って言ったら、こんな冊子があるのに講師の先生は全部頭に入ってると思って、子どもたちはびっくりします（会場笑）。ぜひ、そうしてやってください。で、ここで前日にやるっていうのは、もう何度も言います、ぐっすり寝て爽やかな気持ちで学校に行く。子どもたちは、小さい子どもたちは特にそうですけども、普通の顔で行くと怒っていると思っています。また、子どもたちは敏感ですから、「思ったことを自由に言ってごらん」と言っても、目がそんなことを言っていない（会場笑）というのはわかっていますので、爽やかな気分で行くというのが一番、前日の仕事になります。

それで、今度授業が始まっていくと、生活指導の先生が「静かにしなさい」と、何回も説教があつて急に静かになります。それは、話は聞いてません。先生を見ているだけなんです。ずっと見ているだけで、どんな人だろう。私は中学校にいました。少し荒れていた学校です。若い女の先生が来たので授業どうだったんだろうと思って、子どもたちに「今度の、この前の国語の先生どうだった？」って聞いたら、子どもたちっていうのは、聞いてないです、見てるんです。で、全部見てないんです。部分にこだわってるんです。「今度の先生どうだった？恐ろしかった？怖かった？授業わかりやすかった？」、大人はそういうことを聞きたいんですね。違うんです。子どもたちに聞いたら、「顔と首の色が違っていた。」（会場爆笑）どうしてあんなに色が違うんだろうと気になってしょうがなかったみたいです。子どもたちは部分にすごくこだわっていますので、見ない、見てないです。だから、最初の5分間は、どうだった、今日学校来るときこんな店があったとか、この学校と自分のご縁を言えばいいと思うんですね。

私は法教育と呼ばれた時に、法教育がまだわからなかった時に、あなたと法教育の出会いは何なのかっていうのが最初に子どもがスツと言ったので、あ、そうか、どこが原点だったんだろうと思って、私も思い出しました。で、思い出したので、よく思い出すと、小学校4年生の冬休みの時に一人で留守番しているとノックがされて。で、そーっと開けると、こう足をひこずってですね、この本を買ってくれないかと言われて。私は子どもただなので、足を引いてるところにすごく目がいつまいて。足をひこずってるからかわいそうだと思うのは、それは傲慢な話だと思います。しかし、子ども心に私はかわいそうだったんです。で、自分だけ何か暖

かい所にいて申し訳ないような気持ちになって、持っているお金全部渡してその本買いました。それで2階に上がって、この冬の寒い中ね、彼はどこに行くんだろうと思ってそーっと開けてみると、走って帰ってました（会場笑）。私は勝手に、騙されたんだと思ったんですね。でも歳をとって、でも彼は一言もそんなことは騙したことは言っていないのに、自分で勝手に妄想して自分で勝手にお金を払ったんです。騙しても騙されてもいけない、あ、もしかしたら法教育の原点はそこにあったのかなと、その子に言われて初めて思い出しました。

子どもたちは何しに来たんか、素朴な意見があればどんどん聞くことで、そういうものをひもときながら導入を始めていくと、子どもたちは見ます。で、この5分間は勝負の時です。最初に何をするかっていったら、「後ろの人、見えましたか、（手で）○をしてください」で、こっち側に行って「見えたら手を振ってください」、自分の声が奥まで伝えてるんですよというメッセージを出すことですね。マイクを使ったらいいのか使わない方がいいのか、いろんな子どもに目配せをして、こういう声でどうですか？聞こえますか？見えますか？一個一個聞いたりして、全体のトーンをまず掴むというのに、5分間は勝負の時だと思います。それから、ようやく間に50分あってもせいぜい中身は30分です。この30分に自分の持っていきたいのを、子どもたちを動かしたり、聞いてみたりして。

この時についてやってしまうのは、後で、やってはいけないことでお話したほうがいいのかもわかりませんが、ここの山場のところで30分で言いたいのはですね、学校の教員って、教育学部で一番指導を受けるのは、私は教育学部ではなかったんですが大学院で指導を厳しく受けたのは、指導案の山場はこの30分なんです。で、指導案っていうのは何を書くのかっていうと、私たちただ、料理の本で言えばおいしい料理を食べたい、栄養価の高いものを食べさせてあげたい、そんな思いで一生懸命教材にあたるんですが、教材というのは、おいしい料理を食べさせたいじゃないかって、おいしい料理にするにはどんな段取りがいいのか、どういう順番がいいのか、こういう目標にするにはどんな段取りがあるのか。について私たちの欠点は、自分たちが理解したやり方で教えようとするんですね。自分が小学校や中学校や高等学校や大学で教えられたとおりに繰り返すだけなんです。それは私たちだけの理解の仕方、子ども全般ではないです。子どもによったら帰納的にいろんな事実を並べて抽象化した方がわかりがいい子もいるし、数学が好きな子は原理を教えてどんどん応用していった方が面白かったり、それぞれ理解の仕方は違うので、方法はたくさん身に付ける必要があるかもわかりません。その時に、について専門家の方はリアルな話をしようとして、ほんとにリアルを持って来られる方います。例えば、「もし、あなたのおじいさんが死んだなら」とか。死んでるなんて言ったらですね、そもそも絶望的な気持ちになるんですね。あと、自分を謙虚にするために、私はこういう大学しか出てませんとかって言うと、そういう大学目指してる子は寂しい気持ちになったりします。そういうときにはやはり、いろんなものを出すときに共通にみんなが知っているようなもの。例えば、サザエさんなんかだったら、遺産相続を教えるんだったら、波平が死んだらどうだろうかってときに傷ついたりする子どもはおりません。で、みんながよく知っているような目に見えるような題材をとって、例えば、ついこないだ大正デモクラシーか何かを教えるとき、モボとかモガとかモダンボーイとかモダンガールを教えるときに、モダンガールっていうのはワカメちゃんのように耳の上まで剃ってる女の子で、これがナウだったんですよ、でも今そんなことやってるのはジョンウンしかいないですよ、とか言えば、子どもたちは映像が頭に入るのでよくわかるんですね。これは高校の先生よりも本日フロアにもいらっしゃいますが、小学校の先生が一番得意なやり方です。もし授業の仕組みが知りたいんだったら、高等学校の指導の本ではなくて小学校の先生がおすすです。

小学校では、例えばですね、いろんな事例があると思いますが。もし生物かなん

かの授業で、魚はこんな魚がある、あんな魚がある、さあ覚えなさい、ドリルだ覚えろってやるよりも、小学校の優秀な先生は青い魚とか鯛のような赤い魚を出して絵を描いて、この魚は上の方を泳いでますか？それとも海の深い方を泳いでますか？みんなで議論しましょう。そしたら、知識があつていろいろ品目を知っている子はそんなことまで勉強してないので、勉強出来る出来ないに関係なく議論するんですね。赤い鯛は上の方にいるんだらうか下の方にいるんだらうか、そうした時に、もし赤い鯛が海の近くの方にいたとしたら、鳥は狙いやすいですか、狙いにくいですか？（会場発言「狙いやすいです」）・・やすいですね。そうなってくると海の深い方にいるのが鯛なんだらう、そしたら背中が青い魚は上の方にいるんだらう、子どもは直感的にわかって、そのわかったことが今度魚屋さんに行ったときに、この魚は海の深いところにいるよとか、あ、この魚は上の方にいるけど何ていう名前？とかどんどん勉強が好きになるんですね。見えるように物事をどんどん運んでいったりする。それを授業のところでは、何か見えるような具体例をどんどん持つてくというのが山場になります。

で、今度はどんなに進めても時間には限界があり、盛り上がったとしても5分前には必ずやめるといのがエチケットになります。その5分前にやめて、子どもたちは、あー楽しかったでござーと歴史ができます。私たちは大人ですからほんとにほんとにずっと寝てた子が気になったり、ここで泣いてた子どもの顔が気になったりするものです。子どもたちはすべて一瞬でどんどん動いていきます。子どもたちの記憶は写真です。前と後はありません。その時にあつた写真が頭に鮮明に残る。それでいっぺん振り返って、今日は何を勉強したのか、で、これについてはまだわからなかったね、これについてははっきりわかったね。いろいろ評価をしながら、今日一日何をやったのか、必ず確認の作業がいきます。で、ここで今、学校現場が混乱しているのは、テストでそれをはかった方がいいのか、それともパフォーマンスではかった方がいいのか。今、歴史はパフォーマンスの方にいっております。ですから、今日の答えはここって（ ）にオープンエンドにして、契約とは私たちの生活を（ ）にするものである、そこの（ ）に何か書いて入れてみましょうっていう形のオープンマインドが、今からの教育になるようです。それで、それぞれの意見をどうしてそう考えたのかっていうのを発表させるようなのが、学校で今、求められるようなスタイルになりつつあります。

（注：以下、資料3頁）ここで避けた方がいいこと、みんなさんいろいろご経験なさっているとは思いますが、避けた方がいいことをいくつか列挙しようと思います。一番は時間を守るということです。つつい熱が入ると長くなったりします。なかなか始まりもスムーズに始まったりしません。50分時間抱えても、中身は30分かもしれない。で、そこで大事なのは、前日にと学校と仲良くなって事前にお話をする機会があれば、その司法書士の先生が授業する時に、その前の授業はどんな授業ですか？その後の授業はどんな授業があるんですか？というのを聞くだけでも違います。体育祭がある準備でもうクタクタになっている生徒にいくら言っても、起こすのが精一杯かもわからないです。また移動教室があつてすぐに行かないと実験の準備ができないのに、チャイムがあつても「さあまとめに入りましょう」とか言われてたりすると混乱したりすると思います。時間をきっちり守って前後どうあるのか、特に、小学校なんかでは私たちとは違った価値基準で動いています。違った価値基準というのは、小学校の低学年と私、話すことがあつたんですが、「みなさん！」と言つたら、「みな」という子に言ってるんで私じゃないと思つたって（会場笑）。で、自分ではないと思つたと。また、小学校の子にとって一番大切な価値は、目に見えない価値じゃなくって目の前にいるお母さんです。お父さんとお母さんが朝喧嘩していたら、どんなにいい授業をやつたって子どもは気が気じゃないです。家に帰つてお母さんおらんかったらどうしよう。そう思つて心細い気持ちで教室にいるわけですから、いい授業をすればいい効果が返ってくるとは

限りません。子どもたちが今どういう状態に置かれているのか、そういうことにちょっと心配せするだけでも違います。で、違った反応があった時には、それは何か原因があるのではないかっていうことを思い浮かべることが大事です。で、そんな時に、色を使うとはっきりわかるだろうとってチョークを使われる方いらっしゃるんですが、赤とか緑は子どもによったら見えないです、同じに見えます。灰色が2種類あるだけになりますから、もし強調したいんだったら黄色で書くか、それか（注：小声で・・・）小さい声でお話をするか。何か大事なことを言おうと思ったら（さらに小声で・・・）小さく話すと急に子どもたちは集中します。ずっと同じトーンで言われているとお経を聞いているようでこっくりこっくりするだけです。ということ、あともう一つ、ここは大事なんですが、勉強熱心な方であればあるほど専門用語を正確にお話なさろうとします。ぱっと生徒が罪刑法定主義ってなんですか？と聞いたら、ここぞとばかりですね、「絶対不定期刑の禁止、・・・」（会場笑）とかいろんなことを言って、これにはちゃんと根拠があり条文をちょっと用いて「罪本重ル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハは其重キニ從テ処断スルコトヲ得ス」（会場笑）そんなこと言いだしたら何を言ってるかわからないので、ちょっと嘘があってもいいからざっくりとして、罪刑法定主義ってなんですか？不意打ちをくわしたらダメだと思わない？とかいうので具体例を持っていく。後からなんだかんだ言われたらやだよねっていうので、正確な定義はいいし。東京大学のところにお伺いをして聞いたら、私たちが勉強した時は、我妻栄先生で意思の合致だとかっていうことを習ってたんですが、今、東大ですら約束だって教えてます。契約を。法的拘束力のある約束だって。日常の言葉にどんどん置き換えて、法的拘束力をなぜ持たせるんだらうか。法教育が素晴らしいのは、約束は守りましょう、で、ぱっとくるのは道德教育のありがちなところ。ところが法教育になると、なぜ約束は守らないといけないんだらう、考えさせることができるので、法に関連づけて守らなかったどうなる、守ったらどうなる、いろんなことをイメージさせて教えることが可能なんです。専門用語は極力使わない。

あともう一つは、一生懸命テキストをどこの司法書士会さんも作られています、ほぼ素晴らしいのができてます。でも、つついといいのが出来ると、テキストを教えようとするんです。テキストを教えるんじゃなくて、テキストでこの子達に何を教えたいか、テキストは手段だということを頭に銘じないと、言いたいだけ言ったら教えたいことの羅列で、生徒達が学べるかどうかは別問題なんです。教えただけ伝わってないケースはいくつもあります。子どもたちが知りたいこと、そっちに持っていくこと、子どもたちが聞いたこと、学べることを中心にテキストで学ぶんであって、テキストを教えるということがないように。もう時間も差し詰めだったので大事なところにアンダーラインを引いてくれ、そういうことよりも今子どもたちがここについて深く考えたことを大切にすることが効果的だと、私は個人的に思っています。

で、これまた同じようにまとめます。あ、これは、授業は壮大な実験場で、今日来られてるのでちょっと思い出して言うてしまうんですけども。生徒たちは部分で物事を考えているので、新しいことは、今小学校で一番流行っているドリルはご存じですか？うんこドリルっていう、全部うんこと書いてある、40万部のベストセラーです。小学校1年生は「きりつ、きをつけ、れい、うんこ」と書いてあるんです（会場笑）。それで、起立の立の「立つ」という字を覚えたり。で、子どもたちっていうのは面白いことにはもうどんどん食らいついてきますので。新しい、私が少し困難な高等学校にいた時に、私が中学校1年のときの恩師が昨年までいたというので会いたいなと思ったら、その先生辞めたっていうんです。で、どうして辞めたかっていうと、授業が終わった後アンケートをとるんです。困難校なので子どもたちの機嫌を聞かんといけん。そしたら子どもたちがその時流行った言葉で、「税金泥棒」。で、その先生にみんなで「税金泥棒」って書いたので、ショックを

受けてその方、辞められたんです。で、子どもたちは部分でその時ぱっと思っただけを書いているんであって、前後があるわけではないんです。今日、来られてるのでちょっと思い出して言ってしまって申し訳ないんですが、落ち着いて広島司法書士会を背負ってたいへんおちついた方が、アンケートの中に「もう少し自信を持たれたらいかがですか」（会場笑）って書かれてずいぶん心の中にしこりとして残られたんだそうです。たぶん、部活かなんかで顧問に言われたやつをそのままなすりつけただけであって（会場笑）、心の底から思ったりはしてないですね。で、アンケートをとったらいいというのも、ちょっとこれベテランの話になりますが、アンケートを見れば授業の良し悪しがわかるといっても、とにかく学校は体面が大切なんです。体面が大切なので、生徒のアンケートそのまま税金泥棒というのは出せないでセレクトします。子どもたちは放課後は遊びたいです、そんなことにアンケートなんか書きたくない宿題も嫌です。そしたら担任の先生は、気が利いた先生は、もうあなたとあなたとあなたにアンケートを書いてくださいねと言ったら、講演が始まる前に原稿用紙が出てきます。「今日は具体的な話で、契約とは何か、目からウロコでした」と（会場笑）。もう、何ごとか先にアンケートにいいこと書いてあるので、アンケートにそういうことが書いてあるからといってね、今回の授業が成功だったとは限らないんですね。リアルにその場で子どもたちに確かめるのが一番いいので、アンケートをとってとか今の話し方はどうだとか、そんなことを聞いても、なかなか実態はつかめないかもわかりません。そんなときに教員のいいのは、学校はどんどんどんどん変化し、子どもたちもどんどんどんどん今変わってきてます。その変わってきていることに、今日うまくいった今日うまくいってない、私たちも一喜一憂してます。なので、いろいろアンケート読ませていただいたんですが、ほとんどが杞憂です。突然来て授業してうまくいったと思うほうが間違いで、ここがうまくいかなかった、ここはこうだった。で、子どもたちが大好きな先生は、私のように手練手管の教員ではないですね。失敗する先生です。あ、この先生ここ失敗した。自分たちと同じように失敗する人間がそばにいる。それだけでいいんです。学校は若い先生たちの失敗でもってます。若い先生がやった後は、私たちがそれをフォローするんです。なので、皆さん方があーこれでいい、あーこんな講義すりゃいいんだ、こうやればいいんだ、子どもはこんなもんだと思ってるほうが、むしろ大きい落とし穴かもわかりません。ここがうまくいってなかった、で、それはどんどん子どもに聞けばいいので、教育は壮大な実験場です。今、上の方ではヴァーチャル・リアリティと人工知能でどんどん話がいつて裁判官がいらんのじゃないか、20年たったらこんな職業なくなるんじゃないか。子どもたちにも言います。わざわざ遠い学校まで1時間も2時間もかけて通って、それで私のようなマシンガントークの話を聞くよりも、家でヴァーチャルのをつけてジャニーズの手越君かなんかに壁ドンされてですね（会場笑）、政経やるよってような授業のほうがよっぽど面白いだろうと思います（会場笑）。でもそのうち子どもたちは絶対に飽きます。自分のことはさておいて、プログラミングされたのが機械的に反応してるんで、自分に反応してないからです。法教育が現場に出向いて話をするというのは生きた子どもたちに生きた反応に生きた反応を返しているから子どもたちはこの先生ひどい先生だった、きつかった。いろんなことが頭に残るんで、機械的な映像は何も残らないです。なので、失敗しても困らないし、後で別の先生から修正があるかもしれないって逃げ道残されるだけで十分だと思います。

で、今回をまとめると、授業のところは基本的には授業で目配せする、いろんなところに話をする。で、いろいろ原稿を覚えるのが苦手だったら、この人を見た時はこの話をしよう。この人を見た時はこっちの話をしよう、あらかじめ決めとくと覚えるかもわかりません。（注：小声で・・・）で、声が単調なのが子どもが一番つらいんですね。（注：小声で・・・）時々小さい声で話してみたり、（注：間をとって）・・・ちょっと間を置いてみたり。ベテランの先生方は、そこを見なさい



なんて言わないんですね。こうやって見て、みんなが見た時にそこにこれがあるでしょって話をするし。

で、教育実習なんかで、私はずっと若い先生方をチェックしてます。もう最初でわかります。ドア開けた時に自信のない先生は、左足から入ります。子どもに背を向けてるんです。子どもの顔を見ようと思ってる先生は、必ず右足から来ます。こっから右足で入ったら、子どもが見えるからです。子どもが怖いんだというのは、どんなに上手に笑顔を作ってもすぐわかります。で、チョークはね、なるべくいろんな見え方があって、こう覗いてやってしてください。左上にすると、講師がここに立ってもみることができます。右なんかにしてみるとちょっとだぶったりすることがあります。で、言葉だけではやっぱりダメなところがあって、今の子どもたちは、先ほど視聴覚教材の話がありましたが、図を描くことが一番大事です。絵で教えると直感的になにかいろんなことの操作が頭の中に動いて、理解がしやすくなるんですね。言葉で、今言った言葉を少し絵に描いてみよう。絵で描くとこうなるんですよ。必ず図を入れるようにすると生徒のわかったという顔を確認することが可能です。図示するというのも大事です。この4点を少し頭に入れて下さって授業なさるとうまくいくんじゃないかと思います。

で、学校が今、背負いきれないものをたくさん持っています。なんとか教育、なんとか教育、いっぱいあります。家庭教育が少し崩壊し、地域もない。そんな中で、意図的、計画的な学びができる学校は多くの期待が持たれてますが、いろんな法曹の方と協働して仕事ができるってことで、ずいぶん学校は助かります。よろしくお願ひしたいところです。

で、子どもたちに規範意識を育てるために、今度「公共」という授業を「現代社会」をやめて導入することが決定してます。公共心がないじゃないか、それは分析が正しいかどうかは、私はクエスチョンを持っています。(注：資料3頁左下グラフ)一つには、楽しい生活をしたい、どんどんどんどん増えてます。選挙に行くよりも彼氏とディズニーランドに行きたい。私生活を優先しています。その一方で社会のために役立ちたい、そういう思いもどんどん今、子どもたちの中で増えています。そしたら楽しい生活のところを叱るよりも、社会のために役立つにはどんなことができるだろうか、そういう子どもの気持ちに沿って授業することも可能なのではないかと、というふうに思っております。

私たちには、どうしてもできないことがあります。法律のリアルな内容、専門的な解決の仕方、それについては私たちは未熟です。しかし、どんなやり方でやったらいいのかっていう方法論については、いろいろ手段を教員は持っていますので、こういう内容をあなただったらどんな方法で教えますか？って問い合わせをしたり、私たちの方もこういうことを子どもたちに学ばせたいけど、現実はどうなっているんでしょうってことを教えていただくと、ずいぶん実のなった役に立つ教育ができるんじゃないかと思います。

ごめんなさい、あと5分になってしまったので。ネットにたくさんいろいろな教材があります。

例えば、リアルであるっていうのは、こういう(注：教材例を紹介しながら)、今、労働法教育だとか主権者教育だとか、法に関連した教育をするときに、教材として、例えばこういう写真であたかも撮ったかのようにして。少し読みますね。

(以下、教材例紹介：詳細は省略)

「さあ、これにどんな問題点があるか探してみましよう。」こういうのが、導入としていいんですね。それとか、これのどこが問題かわかるようになるように今日は授業しますとか。こういうことができた。とりあえず、子どもたちは達成感を持ちます。その時、ある子どもは子どもなりに、これ一生懸命見るんですね。「う・

か・つ・き・こ・で・ま・ぬ・し。新しい雇用形態を提案する。「うかつきこでまぬし」でも、子どもはしっかり読みますので「しぬまできつかう」と下から読みますので、あ、そうか、そんな会社だったのかというので（会場笑）。

教育は壮大なる実験場ですので、リアルな話も面白いですが、いろいろなちよつとしたことを入れて実際の社会のことを教えてみる、いろんなことが出来るんではないかと思います。ごめんなさい、あと1分しかございません。もし何かありましたら、また登壇しますのでよろしくお願いします。今日の話、ありがとうございました。（会場拍手）

小関

ありがとうございました。

(4-4につづく)